

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福島県】

学校名【福島市立吉井田小学校】

1 実践テーマ	I・II・IV・V
2 実施対象者 (学年・人数)	全校生 492名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (体育科 総合的な学習の時間 社会科 生活科 国語科)</p> <p>② 行事名 ( 吉井田オリンピック2021パート1～4 )</p> <p>③ その他 ( 食育 )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	<p>「オリンピック・パラリンピックで吉井田っ子が、輪になる心」</p> <p>○自らの目標をもち、自らのベストを目指す子ども</p> <p>○スポーツに親しみ、知・徳・体の調和のとれた子ども</p> <p>○日本人としての自覚と誇りをもち、自ら学び行動できる子ども</p>
5 取組内容	<p>I 学校行事等</p> <p>(1) 吉井田オリンピック2021パート1「運動会」(全校生)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度の吉井田オリンピックも新型コロナウイルス感染症予防のため低・中・高学年と3段階に分けて実施した。運動会は昨年度同様に「吉井田オリンピック」とし開会式や閉会式、競技種目の内容はオリパラを意識し、創意工夫して行った。</li> <li>・ 入場行進前に本校マーチングバンド部員による1964年の東京オリンピック・ファンファーレの演奏と花火による開催合図に続き、学年旗と吉井田オリンピック旗を振りながらの入場行進、実行委員長(児童会代表委員会委員長)による開会宣言と聖火台への点灯を行った。開会式後には準備運動を兼ねて「東京五輪音頭～2020～」と〈NHK〉2020応援ソング「パプリカ」を使用したダンスを踊った。</li> <li>・ 競技種目はパラリンピックを意識し、シッティング玉入れ(立ち膝からの玉入れ)ボッチャ、ゴールボール目隠しをした友達の手を引いてゴールするなどを取り入れた種目を行った。各所にピクトグラムを置いてオリンピックムードを高めた。</li> <li>・ 子どもたちによる運動会スローガンを作成する際は「自分たちがオリンピック」という意識が生まれ「この瞬間は一度だけ、輝け 吉井田のオリンピック」に決まった。各クラスで考えたス</li> </ul>

ローガンは聖火をかたどったモチーフに書き、校内に提示した。

- 各ブロックでの開催のため、聖火リレーは低学年から中学年へ、中学年から高学年へと受け渡しをおこなった。
- 閉会式は後日、全校集会として行った。今年度はフラックハンドオーバーセレモニーを実施し、6年生から5年生へ吉井田オリンピック旗を引き渡し、来年度の吉井田オリンピック2022開催に向けての思いをつないだ。



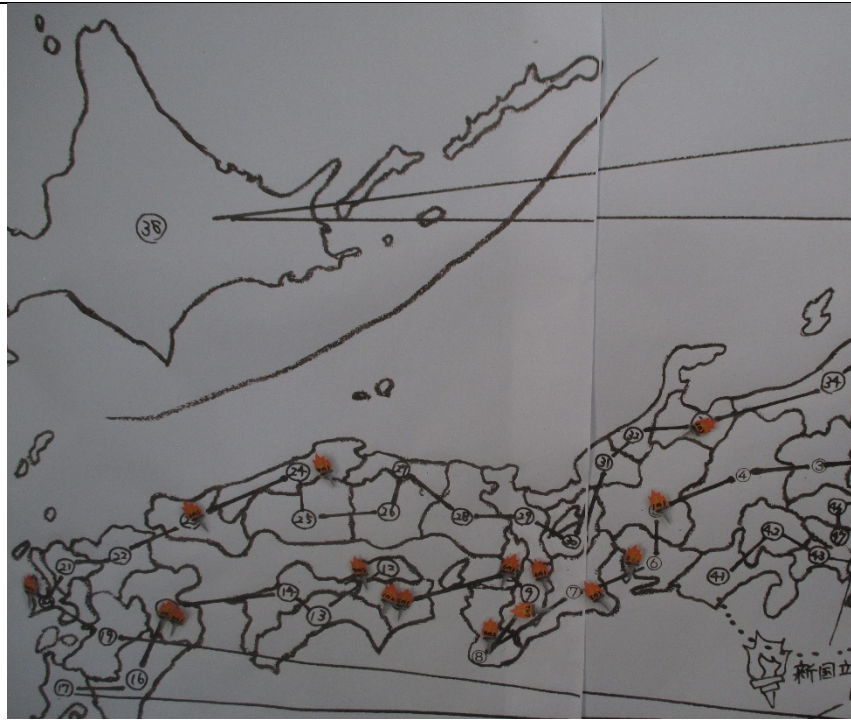
### (2) 吉井田オリンピックパート2021パート2「水泳記録会」(全校生)

- 水泳記録会に向けて一人一人の目標をカードに記入し校内に掲示した。目標を達成できた児童のカードにはシールを貼り、達成感を得るようにさせ、他の児童への意欲喚起を行った。



### (3) 吉井田オリンピック2021パート3「聖火リレーで日本一周マラソン(持久走)」(全校生)

- 昨年度同様にマラソンカードに日本地図を配置し、走った距離に応じて、東京2020オリンピック聖火リレーで巡回する各都道府県をリレーと同じコースで進むカードを作成し持久走記録会に向けての練習として取り組ませた(福島県スタート東京都ゴール)
- クラス全員が日本一周マラソンを目指して取り組んだ成果が現れ、11月に実施した持久走記録会では、各学年の子どもたちが自己ベストを目指して全力で走る姿が見られた。



(4) 吉井田オリンピック2021パート4「みんなで跳ぼう！なわとびオリンピック」(全校生)

- 12月より紅白対抗で長縄(8の字跳び)に挑戦し、跳べた記録を競わせた。福島県で行っている体力向上ムーブメント事業にも参加した。跳べた記録を更新しながらWEB上で登録し他校と競争をさせることで上位を目指す意欲を高まったようである。
- ホワイトボードを活用し、毎回跳べた記録を更新するようにすることで、クラスや学年の記録が一目でわかり、次の目標に向かって練習にも力が入る様子が見られた。
- 運動会同様に紅白対抗にし、1年生から順になわとび記録会を実施し、最後の6年生の回数で勝敗の結果が決まるように工夫した。

(5) オリンピックロードの設置

- 全校生が授業で活用する特別教室前の廊下の掲示板には吉井田オリンピック2021の記録を掲示し、年間を通した取り組みであることの意識を高めたり、オリンピックロードとして保護者や来校者への紹介にも努めたりしている。



(6) 学習発表会における入場行進曲の演奏と、ピクトグラムのパントマイム発表（6年）

- 6年生は「私たちは超えられる」をテーマに、東京大会での入場行進曲「ドラゴンクエスト・ロトのテーマ」の合奏とピクトグラムのパントマイムを行った。また、英語で開会宣言も行った。子どもたちの思いとオリパラの感動を再現させた

II 授業

(1) 体育科（1・2年）ボッチャの体験

- 福島県障害者スポーツ協会の丸山内雄大氏を講師にボッチャの体験を行った。簡単なルールを教えてもらい、一人一人ボッチャの球を手に持ち、ゲームを行いパラスポーツの楽しさや難しさを体験させた。



(2) 体育科（3・4年）シッティングバレーの体験

- 福島県障害者スポーツ協会の丸山内雄大氏を講師にシッティングバレーの体験を行った。バレーボールが初めてだったためボールをはじくという技能が難しかったが、座ってボールをコントロールする難しさを体験することで、パラスポーツへの理解を深めさせることができた。

(3) 体育科・総合的な学習の時間（5・6年）オリンピックによる講演と実技指導

- 北京オリンピック4×400mリレー出場の佐藤真有さんを講師に「オリンピックと私」という演題で講演をおこなった。北京オリンピックの際の写真やビデオを見たり、夢を実現することの大切さを聞いたりすることで、オリンピックへの憧れや、今後の生き方のメッセージを感じさせることができた。
- 走ることの基礎的な技能を教えていただいた。足の裏全体で地面を蹴ることやリズムを大切にすることなどを教えていただき陸上競技に対する関心を高めることができた。



(4) 社会科（6年）「生け花体験教室」

- JA福島未来の協力により、社会科学習の一環として実施した。（現代にもつながる室町文化の体験）生け花の歴史を学び、実際に生け花を体験することを通して、日本の伝統文化のよさにふれるとともに、おもてなしの精神を養うことにつながった。



(5) 国語科（3年）「パラリンピックの調べ学習」

- 国語科の学習でパラリンピックについて調べる学習を実施した。パラリンピックの種目、マスコット、ピクトグラム、メダルなどテーマを決め、新聞にまとめた。

(6) 生活科（1年）「あさがおに国旗を飾ろう」

- 5月より育ててきたあさがおに、いろんな国の国旗を書きラミネートしたものを茎に飾った。おもてなしの気持ちを伝えることを子どもたちに意識させた。福島県での野球・ソフトボール競技は無観客になったが、有観客ならば、他国のお客さんも喜んだと考えられる。

Ⅲ その他の活動

(1) 食育（全校生）「ベトナム・スイス（福島市ホストタウン）の料理作り

- 本校栄養技師の協力と給食委員会の呼びかけにより給食のメニューを全家庭に紹介し、各家庭でベトナム料理とスイス料理

を作ろうという呼びかけをした。各家庭で作った料理を写真に撮り、感想を添えて提出してもらった。レシピを紹介したことで家庭毎にアレンジを加え親子で楽しく料理に取り組ませることができた。またホストタウン国についての興味の深まりもあり、他の料理の紹介を促す感想もあった。



(2) オリンピック聖火トーチの展示 (全校生)

パラリンピック聖火トーチ (3月8日~3月14日)

オリンピック聖火トーチ (6月1日・2日)

- ・ オリンピック聖火トーチを校内に展示した。一人一人手に持ち主さを感じたり、トーチに込められた思いについて考えたりした。

6 主な成果

- 吉井田オリンピックをパート1 (運動会) パート2 (水泳記録会) パート3 (持久走記録会) パート4 (縄跳びチャレンジ) と年間を通して計画的に実施してきたことで、オリンピックへの興味や関心がたかまり、運動に対する意欲が高まった。また、全校で取り組む喜びや、競争や記録を向上する楽しさを体感させることができた。
- シットイングバレーやボッチャを体験することで、パラスポーツへの興味を深めることができた。また、元オリンピックの佐藤真有氏に講演や実技指導により「走る」技能の高まりを感じさせることができた。
- 生け花教室やホストタウンの料理を作ることで、自国や他国の文化について理解を深めるとともに、今後外国語のお客様をお迎えする時の気持ちを学ばせることができた。

7 実践において工夫した点 (事業の特色)

- 5年間の実践の積み重ねから、各教科の中でオリパラ教育を意識し、年間を通して計画的に学習活動をおこなった。
- オリンピック・パラリンピック教育活動全体計画を作成し、各学年の教科等の指導内容に関連させた実践内容を設定した。年度末に内容を見直すことで次年度の内容が充実したものとなっている。
- アスリートとの直接体験活動や実技体験を全学年で実施した。昨年度できなかったことを感染症対策を十分に行うことで実施し、子供達への興味・関心を深めさせることができた。

8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オリンピアンやパラリンピアンを招聘して講演や実技指導を行いたい、予算的な問題や、学校側の日程と競技者側の日程を合わせることが難しいなどの課題がある。</li> <li>○ 東京オリンピック・パラリンピック後、オリパラ教育をどのように継続していくか、子供達に興味関心を持たせていくための工夫が必要である。</li> </ul>
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オリンピック・パラリンピック教育全体計画の見直し</li> <li>○ オリンピック・パラリンピック競技に体験教室など全体的な展開</li> <li>○ ボランティア活動の体験の実施（スマイルプロジェクト）</li> <li>○ 年間を通じた吉井田オリンピック2022活動</li> <li>○ オリンピアンやパラリンピアンのおこがれや思いを知る学習の実施</li> <li>○ 他国への関心や理解を高める取り組み</li> </ul>